

特集

「ロジカルシンキングの基本（その8）」・・・ロジックツリーの活用方法

THANKSでは、ロジカルシンキング（論理思考）の特集を組んでいます。
前回は、ロジカルシンキングの基本的な技法である「構造化（体系化）」について解説しました。
今回は、構造化の中でも、最も一般的な手法である「ロジックツリー」の活用方法を確認します。

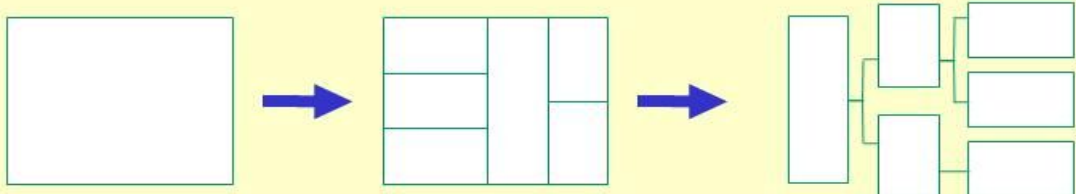
その前、構造化について、ちょっとおさらいをしておきましょう。

構造化とは・・・

⇒ [前号参照](#)

構造化（体系化）とは・・・

複雑に見えるものを、いくつかの要素に分解したうえで、それらの要素間の関係を明らかにして、全体と構成する要素を同時に理解できるようにすること



構造化（体系化）を定義すると、上記のようになります。
構造化のメリットとしては、以下の通りです。

① 新しい発想が生まれやすくなる

前号の「スーパーの拡販策」を思い出してください。
体系化によって、論理的に物事を考えることにより、「経験」だけでは思いつかない、新しい発想のアイデアを考えることができます

② 重要なヌケモレがなくなる

特に、問題に対する原因究明を行う場合、注意しなければならないことは、重要な原因のヌケモレです。

本質的な原因を見過ごしてしては、真の問題解決は不可能です。

体系化により、全体を理解することは、こうしたヌケモレを回避するために有効です。

③ 手段と目的のつながりが明確になる

「手段」と「目的」の混同は、仕事の中でのよくあることです。構造化により「手段」と「目的」のつながりを明確にすることにより、このような混同を防ぐことが可能になります。

ロジックツリーの活用方法

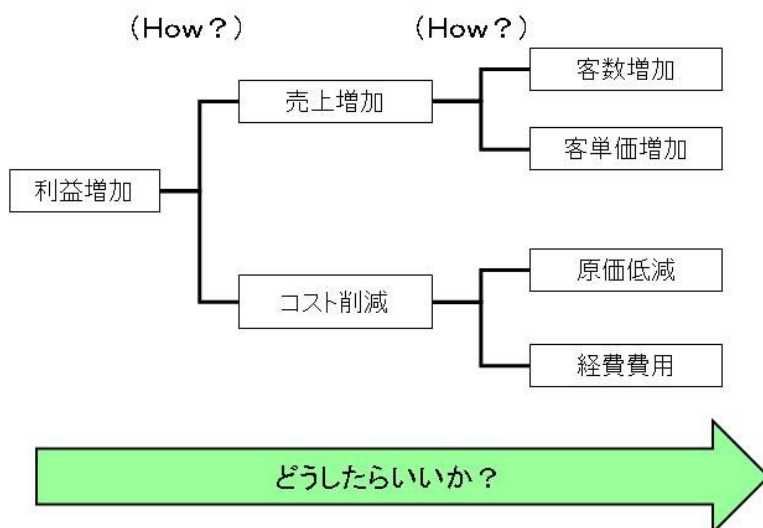
「ロジックツリー」とは、物事を論理的に分析、検討する時に、その論理展開を樹形図に表現していく思考技法のことです。

構造化技法は、他にもいろいろありますが（詳細は後述）、ロジックツリーは、その中でも最も一般的なものです。

ロジックツリーを上手に使いこなすことができれば、構造化については、ほぼ80%はマスターしたと考えても良いでしょう。

「ロジックツリー」は、ビジネスの中で、いろいろな場面で活用できます。代表的な活用方法を確認しましょう。

A. 対策立案のロジックツリー（HOW ツリー）



目標達成（課題克服／問題解決）のために、どのようなことを行うべきか？具体的な対策の立案のための活用方法です。

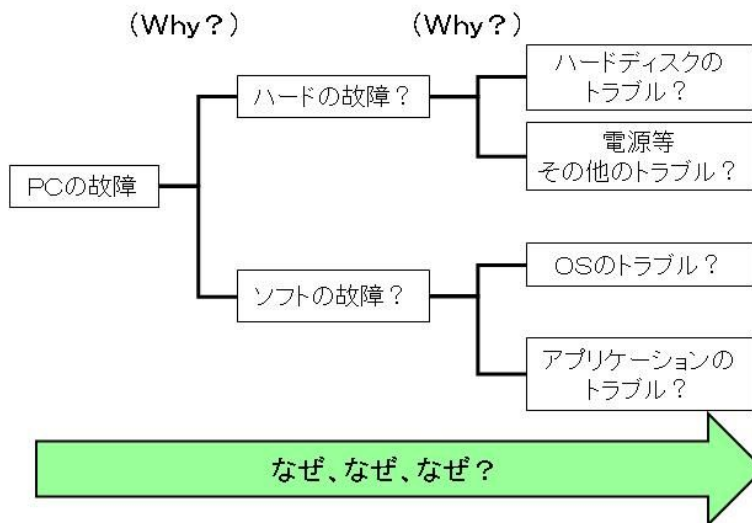
例えば、「利益を増やす！」という場合。その方法はいろいろあります。

「売上を増やす」方法も考えられますし、また、「コストを削減する」方法もあります。さらに、「売上を増やす」といっても、「客数を増加する」方法もあるし、「客単価を増やす」方法もあります。

このように大きな目標を、「どうしたらいいか？」「どうしたらいいか？」という具合に、どんどん細かくしていく。

そうすることによって、偏った視点の対策だけが列挙されることが無くなりますし、新たな発想も生み出すことができます。

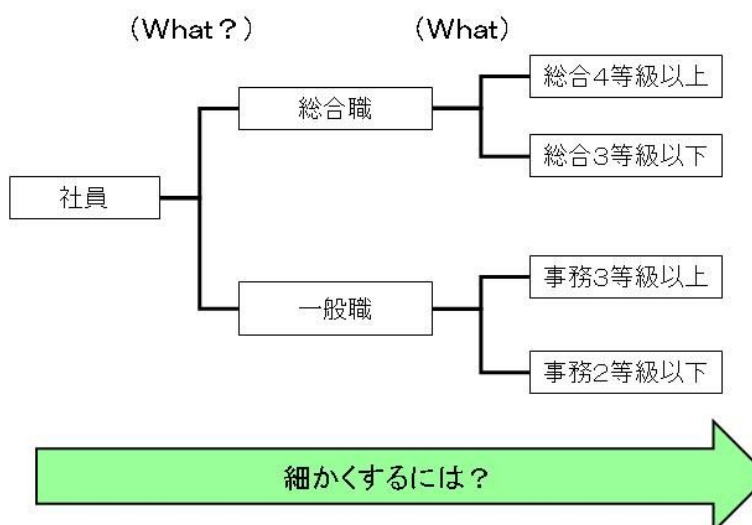
B. 原因分析のロジックツリー (WHY ツリー)



発生した問題の原因は何か？
その原因を分析するための活用方法です。

例えば、パソコン（PC）が故障した場合、その原因としては、「ハードウェア」の故障も考えられますし、「ソフトウェア」の故障も考えられます。
また、「ハードウェア」の故障にしても、「ハードディスク」が原因の場合もあれば、「電源等のその他の部品」が原因になることもあります。
想定される原因を「なぜ？」「なぜ？」という具合に、どんどん細かくして行く。
そうすることによって、想定される原因を、もれなく列挙することができます。

C. 構成要素分解・細分化のロジックツリー (WHAT ツリー)



大きな塊を、どのように細かくして行くか？
構成要素の分解・細分化のための活用方法です。

例えば、社員を細分化する場合、上記のように「総合職」と「一般職」。
さらに、それぞれの職種を等級によって区分することができるでしょう。

「簡単だよね！」

一見、そう思いがちですが、あなどることなかれ。

実は、この活用方法が、一番難しいのです。

それは、細分化の切り口が何通りもあり、答がないからです。

例えば、上記は、「新人事制度」を検討する場合に現状の職種／等級にどの程度の人数がいるかを確認するための切り口です。

もし、大量の定年世代を控えた抱えた会社が「今後の採用政策」を考える場合であれば、「年齢」という切り口で細分化することが妥当でしょう。

その他、「性別」で切る場合もあれば、「資格」で切る場合もあります。

「細分化したけれど、ほとんど意味がない・・・」

「細かく分けすぎて、何がなんだから、さっぱり分からなくなってしまった・・・」

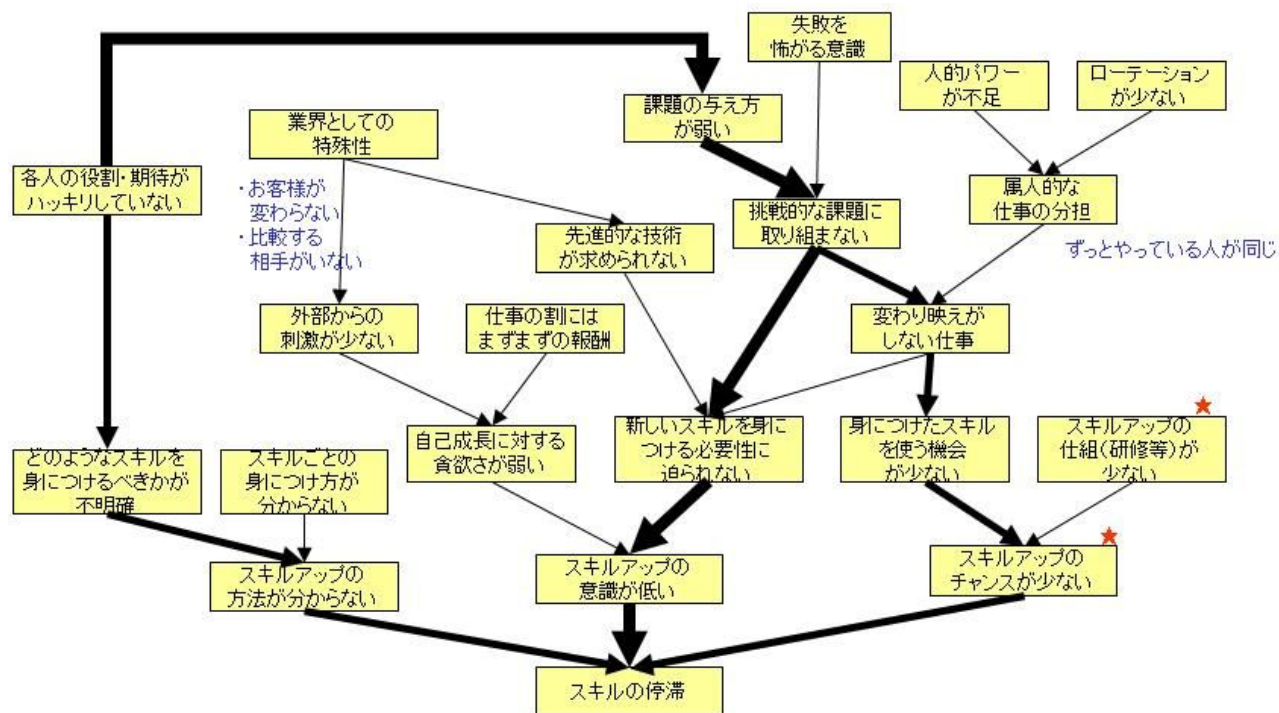
よく聞く話です。

最も大事なことは、最初に「何のため？」という細分化の目的を明確にしておくことです。

(参考) その他の構造化技法

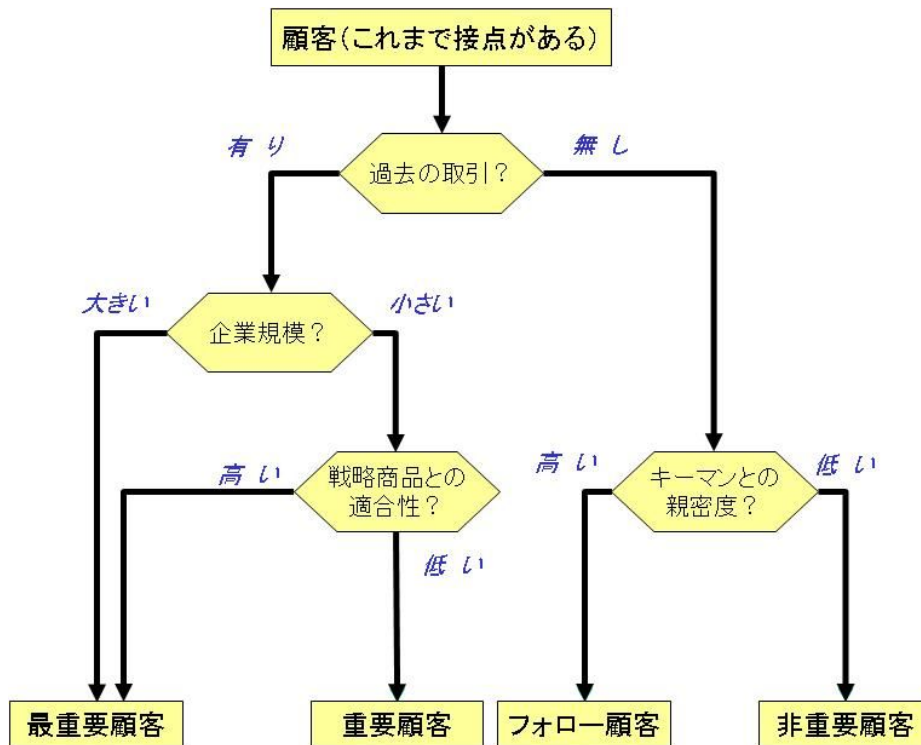
構造化の技法は、「ロジックツリー」だけではありません。
参考までに、他の技法もご紹介します。

因果関係図



主に、「原因分析」の際に活用します。
因果関係が複雑に絡むものや、原因－結果の関係が「ニワトリタマゴ」のような場合、ロジックツリー (WHYツリー) では整理しにくいために、こうした技法が用いられます。

ディシジョンツリー



主に、複数の条件をもとに、意思決定（こういう場合にどうするか）を行う際に 活用します。
特に、「敗者復活的」な要素があるものについては、ロジックツリーでは整理 しにくいいため、こうした技法が用いられます。

<次回へつづく>